

## 地域のリーダー、第374空輸航空団と共に飛行 *Japanese civic leaders fly with 374 AW*

May 2, 2024

By Staff Sgt. Tristan Truesdell  
374th Airlift Wing Public Affairs

4月10日、横田基地で「シビック・リーダー・フライト」が行われ、基地周辺地域のシビック・リーダー20人以上が第374空輸航空団所属機C-130Jスーパーハーキュリーズの体験搭乗に参加した。

東京消防庁、地元の警察署と消防署、横田友好クラブのリーダーたちは、C-130Jスーパーハーキュリーズの飛行体験を通じて横田基地の空輸能力を実際に見て学んだ。

第36空輸中戦術副主任キャサリン・ブレチブル大尉は、「今回の飛行は、地元の首長、防衛局、地元警察や消防署の関係者、地元のリーダーなどに横田基地の空輸任務を紹介する機会となった」と述べた。

空軍のシビック・リーダー・プログラムは、軍と地元地域との関係を構築し、双方の理解を深めることを目的としている。横田基地の地元のリーダーやパートナーたちは、第374空輸航空団の活動やその重要性をコミュニティに広く周知し、支援を呼びかけ、リソースを集め、基地の使命を支える力となりうる支援者である。

第374運用支援中隊監督官クリスチャン・チェコタ曹長は、「基地の使命を日本の地元のリーダーに知ってもらうことは重要だ。任務の目的や潜在的な課題を理解してもらうことで、透明性と信頼を高めることができる。地元地域のリーダーと交流を図ることで、それらの戦略的パートナーシップがいつか重要な影響力を持つかもしれない」と述べた。

地元のリーダーたちは、今回の体験飛行で日々の空輸任務と各ミッションの緻密さを目の当たりにした。そして最後に、機体後部の開いた扉から富士山を望んだ。日本のような接受国との同盟やパートナーシップの強化は、自由で開かれたインド太平洋地域を守るという共通の目標を進展させる。

チェコタ曹長は、「パートナーや地域のリーダーに、日々の任務を実際に見てもらい、飛行を体験してもらうことはとても意義深い。これを実現させるためには、さまざまな機関との多岐にわたる調整を要したが、参加者が終始見せていたその笑顔は成功の証であり、その一端を担えたことを嬉しく思っている」と語った。

